





科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性	
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3
21UPWC3023	関係行政論	3	心理・社会福祉に関する支援を求められる分野における法律、制度を理解する。	1. 保健医療分野に関係のある法律、制度について概説できる。 2. 福祉分野に関係のある法律、制度について概説できる。 3. 教育分野に関係のある法律、制度について概説できる。 4. 司法・犯罪分野に関係のある法律、制度について概説できる。 5. 産業・労働分野に関係のある法律、制度について概説できる。	◎	◎	○	○			○		○	○
21UPWC1081	情報リテラシー	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	1. 本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。 2. 基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 3. レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。								◎		
21UPWC1091	英語 I	1	基本的な文法事項を確認し、「読む」スキルおよび「書く」スキルを中心に身につける。	1. 基礎的な文法事項を理解できる。 2. 英文の内容を正しく読み取ることができ、日本語に訳すことができる。								◎		
21UPWC1101	英語 II	1	基本的な文法事項を確認し、「読む」スキルおよび「書く」スキルを中心に身につける。	1. 基礎的な文法事項を理解できる。 2. 英文の内容を正しく読み取ることができ、日本語に訳すことができる。								◎		
21UPWC1113	Oral Communication I	1	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	1. 英語の基礎文法や語彙を理解する。 2. 基本的な英語会話ができる。								◎		
21UPWC1123	Oral Communication II	1	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	1. 英語の基礎文法や語彙を理解する。 2. さまざまな場面での基本的な会話ができる。								◎		
21UPWC1133	心理学研究法	1	心理学研究の基本的な論理、プロセス、および研究アプローチについて理解する。	1. 心理学を研究する上での心構えを身につける。 2. 心理学の研究を実施する際に、最低限知っておく必要のある知識やテクニックを身につける。 3. 心理学における質的研究および量的研究を含む実証的研究法について概説できる。 4. データを用いた実証的な思考方法を修得している。 5. 心理学研究における研究倫理について理解している。	◎			○						
21UPWC1143	臨床心理学概論	1	臨床心理学とは何かについて、基本的なものの見方、考え方を理解することを目的とする。臨床心理学の代表的な理論を学ぶとともに、さまざまな臨床領域で実践されている心理的援助についても学ぶ。	1. 臨床心理学の基礎的な知識を身につけることを目的とする。 2. 臨床心理学の代表的な理論と具体的な援助方法を学ぶ。 3. 臨床心理学の成り立ちについて概説できる。	◎			○	○				○	○







科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																			
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																			
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性										
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3							
21UPWP2073	学習・言語心理学(学習)	2	学習心理学における主要なテーマである条件づけと記憶の理論について理解することを目的とする。	1. 経験を通して人の行動が変化する過程を説明できる。 2. 学習や記憶に関する様々な理論や仕組みを知り、それらを日常場面と結びつけて理解できる。	○									◎	○									
21UPWP4013	学習・言語心理学(言語)	4	ことばに関する様々な心理学的・言語学的研究事例の紹介と検討を通して、人間が言語を扱う能力や運用のしくみ、言語を習得していく過程などを学ぶ。	1. 人が言語を扱う能力に関する学問的知識を習得している。 2. 言語運用やコミュニケーションに関する学問的知識を有している。 3. 論理的・客観的思考力を身につける。 4. 言語の習得における機序について解説できる。	◎		○	○				○	○		○									
21UPWP4023	感情・人格心理学(感情)	4	人間の感情に関する理論やメカニズムを学ぶことを通して、感情と行動の関係を理解し、感情心理学の基礎知識を持つことを目標とする。	1. 感情に関する理論および感情喚起の機序(メカニズム)について概説できる。 2. 感情が行動に及ぼす影響について概説できる。 3. 感情心理学について幅広く基礎的知識を得る。	◎																	○		
21UPWP3023	感情・人格心理学(人格)	3	人格(パーソナリティ)の諸理論を概観し、人格とは何かを理解し、人格がどのように形成され、表出されるのかについて学び、人格心理学の基礎知識を持つことを目標とする。	1. 人格(パーソナリティ)の概念および形成過程について概説できる。 2. パーソナリティについて行われてきた基礎的研究について理解し、パーソナリティの類型、特性等について概説できる。 3. 様々な日常場面において、パーソナリティが実際にはどのように影響するかについて学ぶ。	◎										○	○								
21UPWP3033	神経・生理心理学(生理)	3	人間行動の基本的メカニズムに関する生理学的側面からの理解を目的とし、生理心理学の基礎となる神経系の構造と働きおよび、脳・身体と行動との関係を理解する。	1. 脳神経系の構造および機能について概説できる。 2. 記憶、感情、ストレス等の生理学的反応の機序(メカニズム)について概説できる。	○																		◎	
21UPWP3043	神経・生理心理学(神経)	3	脳の構造と正常なはたらきを理解した上で、失語症、失認症、失行症などの高次脳機能障害および発達障害にみられる神経心理症状について学ぶ。これらの理解を通して高次脳機能障害者や発達障害児(者)の内的世界への洞察を深め、適切な臨床的態度を身につけることを目指す。	1. 脳神経系の構造および機能について概説できる。 2. 高次脳機能の障害および必要な支援について説明できる。 3. 脳障害者や発達障害児(者)の行動や内的世界への洞察を深め、脳障害や発達障害に関する基礎知識を習得する。 4. 脳障害者や発達障害児(者)の行動や心理を、その表面的な特性に振り回されるのではなく、本質的課題を見極め、共感的に理解できる能力を養う。	○		○						○	○	◎	○	○	○						
21UPWP2083	社会・集団・家族心理学(社会・集団)	2	社会心理学ならびに集団心理学の目的である、社会的場面・集団的場面における社会的行動のメカニズムを理解し、予測し、これを制御するために、社会的行動の規則性ないし法則性を理解する。	1. 社会・集団心理学に関する基本的な考え方を理解する。 2. 対人関係ならびに集団における人の意識および行動についての心の過程を説明できる。 3. 人の態度および行動について様々な理論を用いて説明できる。 4. 科学的な視点から人間行動を理解する方法を獲得する。 5. 日常的な行動のメカニズムについて、科学的・論理的に分析することができる。 6. 社会・集団心理学の知識を対人場面の問題解決に適用することができる。	○		○								◎	○	○							
21UPWP4033	社会・集団・家族心理学(家族)	4	本講義は、社会、集団、家族に関連した心理学について講義を実施する。講義では、家族、集団、文化が人に及ぼす影響について学ぶ。そして、家族や家族の心理について自分の考えを持つことができ、さらに、他の学生とも意見交換を行い、社会、集団、家族心理学について理解する。	1. 家族、集団および文化が個人に及ぼす影響について概説できる。 2. 自分の考えと他者の意見を双方向に交流させることができる。 3. その上で家族や家族心理についての、自分の考えをしっかりと持つことができる。	○				○						○	◎	○	○	○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1
21UPWP3053	障害者・障害児心理学	3	各障害について定義（概念）を明確にし、それぞれの障害に特有の発達上の課題、社会生活上で生じてくる様々な問題を理解すること、そして問題解決のための心理学的援助のあり方を理解することを目標とする。	1. 身体障害、知的障害および精神障害について概説できる。 2. 障害者、障害児の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。	◎	◎						○	○	○	
21UPWP2093	心理学的支援法	2	心理カウンセリングや心理療法といった心理学的支援の理論と技法について体系的に学ぶ。また、実際の臨床現場で心理カウンセリングや心理療法といった心理学的支援がどのように行われているのかも知る。	1. 心理的支援を要するクライアントの心理学的問題を適切に理解する。 2. 代表的な心理療法ならびにカウンセリングの歴史、概念、意義および適応について概説できる。 3. 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 4. 心理に関する支援を要する者およびその関係者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 5. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 6. 心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。 7. 心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。 8. 心の健康教育について理解できる。	◎		○	○				○	○	○	
21UPWP4043	健康・医療心理学	4	1. ストレスと心身の疾病の関係について理解する。 2. 医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について理解する。 3. 様々な保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について理解する。 4. 災害時などに必要な心理に関する支援について理解する。	1. ストレスと心身の疾病の関係について概説できる。 2. 医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3. 様々な保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について説明できる。 4. 災害時などに必要な心理に関する支援について説明できる。	○		◎	○			○		○		
21UPWP3063	福祉心理学	3	福祉現場において生じる諸問題について、その背景を心理的・社会的観点から理解する。さらに、社会福祉の対象となる人びとに対する支援を心理学的観点から考えることを目的とする。	1. 福祉現場において生じる問題およびその背景について説明できる。 2. 福祉現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3. 虐待についての基本的知識と必要な支援について説明できる。 4. 高齢者の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。	◎	◎	◎					○	○	○	
21UPWP4053	教育・学校心理学	4	教育現場では日々様々な問題が発生しているため、このような問題の背景を理解し、改善するための援助方法を検討するための心理学的アセスメントについて理解することが必要になる。本講義では、教育現場でできる援助方法を検討し、他機関との連携ならびに学校内でのケース検討会議の方法を理解する。さらに、保護者との関わり方や介入方法を学び、必要な援助方法を考えるとともに、心理社会的課題も考えられる能力を身につける。	1. 教育現場において生じる問題およびその背景について説明することができる。 2. 教育現場に必要な児童・生徒理解に対する心理学的見方や心理的アセスメントについて理解する。 3. 児童・生徒への心理教育的援助方法について理解する。 4. 教育現場においてチームアプローチ、機関連携、ケース会議などをコーディネートする援助サービスの技能について理解する。 5. 保護者に対する関わり方や介入方法について理解する。 6. 教育現場における心理社会的課題および必要な援助方法について説明できる。	○		◎	○			○	○	○	○	○



科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性				
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
21UPWP2103	司法・犯罪心理学	2	本講義は、犯罪、非行、犯罪被害および家事事件について理解するため、以下のような講義を実施する。 1. 犯罪、非行、犯罪被害および家事事件についての基本的知識を身につける。 2. 犯罪学の諸理論を理解するとともに、理論を批判的に吟味することで合理的・論理的な思考力を身につける。 3. 犯罪・非行とよばれる反社会的逸脱行動は心理的な要因のみで生じるものではなく、環境的・状況的・社会的な要因や生物学的な負因などが複合して生じることを概説する。 4. 心理学が犯罪・非行領域でどのように応用・援用されているかを概説する。 5. 警察、司法、矯正保護などの刑事政策に関わる諸機関の役割やそこで働く心理系専門職の実務を知る。 6. 精神障害者の犯罪、精神鑑定、裁判員制度、少年司法制度など、関連する諸問題についても概説する。	1. 犯罪、非行、犯罪被害および家事事件についての基本的知識を概説できる。 2. 犯罪学の諸理論を理解するとともに、理論を批判的に吟味することで合理的・論理的な思考力を身につける。 3. 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。 4. 犯罪・非行領域における心理検査の活用や矯正処遇技法の初歩的な実践力を身につける。 5. 犯罪・非行にかかわる心理実務者の仕事を知り、将来の職業選択について考える。 6. 精神障害と犯罪、少年司法、裁判員制度などのテーマを通して、市民としての社会的責任を自覚するとともに、社会的な問題に対する関心を深め、生涯学習力を身につける。	◎		○						○		○	
21UPWP3073	産業・組織心理学	3	職場や組織における人間行動について理解することを目的とする。さらに、職場において必要となる心理的支援およびその方法について理解する。	1. 職場（キャリア形成に関することを含む）における問題に対して必要な心理に関する支援およびその方法について説明できる。 2. 組織における人の行動について概説できる。	○		◎						○			
21UPWP3083	公認心理師の職責	3	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働など様々な分野において、心理に関する支援を行う公認心理師の役割について理解することを目的とする。さらに、法的義務や職務上の倫理について理解し、公認心理師に求められる態度や資質の育成を目指す。	1. 公認心理師の役割について理解する。 2. 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 3. 心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。 4. 守秘義務および情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取り扱うことができる。 5. 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。 6. 自己課題発見・解決能力を身につける。 7. 生涯学習への準備を行う。 8. 多職種連携および地域連携のあり方について修得する。	○		◎			○		○	○	○	○	
21UPWP3093	心理演習	3	心理に関する支援を要する者等の支援についての知識および技能の基本的水準の修得を目的とし、具体的な場面を想定したロールプレイや事例検討を通して学ぶ。	1. 心理に関する支援を要する者等に関する①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等の知識および技能を修得する。 2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成について修得する。 3. 心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて修得する。 4. 多職種連携および地域連携のあり方について修得する。 5. 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解について修得する。	○	○	○		◎	○		○	◎		○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性				
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
21UPWP4063	心理実習	4	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野等における施設において、見学等による実習を行いながら、心理に関する支援を要する者への支援の実際について体験的に学ぶ。	1. 実習施設の見学等の実習を通して、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて、身につける。 2. 実習施設の見学等の実習を通して、多職種連携および地域連携の実際について、体験的に理解を深める。 3. 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解を体験的に学ぶ。	○	○			○	○		○	○	○	○	◎
21UPWP4073	心理実習指導	4	心理実習を通して、体験的に学んだことを、心理に関する専門的知識および技能として整理し、体系化することを目的とする。	1. 実習記録として、心理実習の内容を整理し、振り返る。 2. 実習担当教員に、報告・連絡・相談を適切に行うことができる。 3. 具体的な体験や支援活動を、心理に関する専門的知識および技術として概念化・理論化し、体系立てることができる。 4. 実習を通して、心理に関する支援を要する者等についての情報を収集し、課題を抽出・整理できる。	○	○			○	○		○	○	○	○	◎
21UPWP3103	心理調査概論	3	心理学におけるデータ収集方法について理解する。さらに、研究倫理について理解を深める。	1. 心理調査の基本的な考え方を概説できる。 2. 心理学研究における心理調査の目的とその手順を修得している。 3. 心理学研究における研究倫理について理解している。	◎		◎		○			○	○			
21UPWP2113	消費者心理学	2	人々の消費行動における、意思決定に関わる社会心理学的メカニズムについて理解する。また、マーケティングの基礎概念および購買行動についての考察を通して、多面的に消費行動を捉える能力を養うことを目標とする。	1. マーケティングの基本的な考え方を理解する。 2. 消費者行動理解における心理学的観点からのアプローチの重要性を理解する。 3. 心理学に限らず、関連分野にも視野を広げ多面的に消費者行動をとらえようとする姿勢を持つ。	○		○							◎		
21UPWP2123	心理学英語文献講読	2	心理学のテーマを扱った英語論文の読み方と読解の基礎について学び、各自がすでに習得している読み方のスキルを高めるだけでなく、心理学の文献を読み理解するための新たなスキルを獲得する。	1. 英語論文の文章内容が把握できる。 2. 英語論文の詳細が理解できる。 3. 英語論文の日本語での要約ができる。	○				◎							
21UPWP2133	データ処理論 I	2	心理学や社会科学で、アンケート調査や実験を行った際、そのデータ処理になくてはならない統計的な検定の具体的手順を理解し、パソコンによるデータ処理スキルを習得することを目的とする。	1. 心理学的手法により収集されたデータをパソコンを用いて適切に分析できる。 2. 分析結果を文章や図表を用いて、説明することができる。	○		○				◎		○			
21UPWP2143	データ処理論 II	2	心理学や社会科学で、アンケート調査や実験を行った際、そのデータ処理になくてはならない統計的な検定の具体的手順を理解し、パソコンによるデータ処理スキルを習得することを目的とする。	1. 心理学的手法により収集されたデータをパソコンを用いて適切に分析できる。 2. 分析結果を文章や図表を用いて、説明することができる。	○		○				◎		○			
21UPWP4083	医療ソーシャルワーク	4	1. ソーシャルワークの視点とスキルは活躍する場によらず普遍的である。その一方で、的確な援助のためには分野固有の価値やシステムを意識せねばならないことを知る。 2. 今日、多くの事例が保健医療と関わりを有する実態を踏まえて、医療ソーシャルワーカーの倫理、実践、職種間連携のあり方への理解を深める。	1. 医療ソーシャルワークの基礎知識や援助技術について学ぶ。健康かつ文化的な生活を維持・増進させるための医療福祉サービスの広がりをも具体的に想起できることが目標である。 2. 社会福祉の理論や実践が、現代の医療現場における困難や葛藤を緩和できる可能性について認識を新たにす。			◎						○			





科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性					
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	
21UPWP3201	専門演習 I B	3	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。	◎		◎		◎		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎
21UPWP4121	専門演習 II A	4	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。	◎		◎		◎		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎
21UPWP4131	専門演習 II B	4	卒業論文執筆に向けて、その研究内容を深めることを目的とする。	各自の問題意識を深めるとともに、卒業論文や卒業にむけての大きな研究テーマを見出す。	◎		◎		◎		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎
21UPWP4141	卒業論文	4	学業の最終的な仕上げとして、卒業論文を執筆する。	1. 各自の研究テーマについて、卒業論文としてまとめることができる。 2. 自らの研究成果をプレゼンテーションにより、他者に伝えることができる。	◎		◎		◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎



科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性								
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3			
21UPWS4043	健康・医療心理学	4	1. ストレスと心身の疾病の関係について理解する。 2. 医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について理解する。 3. 様々な保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について理解する。 4. 災害時などに必要な心理に関する支援について理解する。	1. ストレスと心身の疾病の関係について概説できる。 2. 医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3. 様々な保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について説明できる。 4. 災害時などに必要な心理に関する支援について説明できる。	○	◎	○		○	○										
21UPWS3033	福祉心理学	3	福祉現場において生じる諸問題について、その背景を心理的・社会的観点から理解する。さらに、社会福祉の対象となる人びとに対する支援を心理学的観点から考えることを目的とする。	1. 福祉現場において生じる問題およびその背景について説明できる。 2. 福祉現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3. 虐待についての基本的知識と必要な支援について説明できる。 4. 高齢者の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。	◎	◎			○	○	○	○								
21UPWS4053	教育・学校心理学	4	教育現場では日々様々な問題が発生しているため、このような問題の背景を理解し、改善するための援助方法を検討するための心理的アセスメントについて理解することが必要になる。 本講義では、教育現場でできる援助方法を検討し、他機関との連携ならびに学校内でのケース検討会議の方法を理解する。さらに、保護者との関わり方や介入方法を学び、必要な援助方法を考えるとともに、心理社会的課題も考えられる能力を身につける。	1. 教育現場において生じる問題およびその背景について説明することができる。 2. 教育現場で必要な児童・生徒理解に対する心理学的見方や心理的アセスメントについて理解する。 3. 児童・生徒への心理教育的援助方法について理解する。 4. 教育現場においてチームアプローチ、機関連携、ケース会議などをコーディネートする援助サービスの技能について理解する。 5. 保護者に対する関わり方や介入方法について理解する。 6. 教育現場における心理社会的課題および必要な援助方法について説明できる。	◎		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21UPWS2013	ソーシャルワーク論ⅠA	2	1. 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。 2. 相談援助の対象について理解する。 3. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. 相談援助の実際について理解する。	1. 人と環境の交互作用について説明できる。 2. 援助の対象について説明できる。 3. 相談援助の過程について説明できる。 4. 相談援助における援助関係について説明できる。 5. 相談援助における面接技術について説明できる。		◎								○						
21UPWS2023	ソーシャルワーク論ⅠB	2	1. 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。 2. 相談援助の対象について理解する。 3. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. 相談援助の実際について理解する。	1. 相談援助の過程について説明できる。 2. 相談援助におけるアウトリーチ、社会資源の活用・調整・開発、ネットワークについて説明できる。 3. 相談援助における記録の種類や方法について説明できる。 4. 相談援助と個人情報の保護の意義と留意点について説明できる。 5. 相談援助における情報通信技術（IT）の活用について説明できる。			◎								○					
21UPWS3043	ソーシャルワーク論ⅡA	3	1. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 2. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 3. 相談援助の実際について理解する。	1. 集団を活用した相談援助について説明できる。 2. 相談援助における様々な実践モデルとアプローチについて説明できる。			○	◎						○						
21UPWS3053	ソーシャルワーク論ⅡB	3	相談援助における事例分析の意義と方法およびソーシャルワークによる支援の実際について理解する。	社会的排除、虐待、DVなど危機的状況にある相談援助事例についてソーシャルワークの視点から分析し、多様な理論を応用しながら問題解決に向けた支援を組み立てる基本的力量を身につける。			○	○			○	◎	○							

















科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性					
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3		
21UPWS4103	ソーシャルワーク演習(専門)C	4	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。また、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。	以下の精神保健福祉の援助技術について、事例等を用いて習得する。 ・ソーシャルワークの過程を通じた援助(ケースの発見、インタビュー、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア)・個別面接・グループワークの展開・ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメント・リハビリテーションプログラムの実施(行動療法、作業療法、回復支援プログラム)・アウトリーチ、コミュニティソーシャルワークの展開・社会福祉調査の実施、計画策定、評価、資源創出、政策提言・普及啓発活動、人材育成(住民への啓発、ボランティア養成、実習生指導)・記録(個別支援記録、公文書作成、業務(日誌・月報等)の記録、スーパービジョンのためのレポート作成等		○		○	◎	○		○	○						
21UPWS3203	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3	ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解し、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	下記の項目について理解し説明できる。 ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導および集団指導の意義、精神保健医療福祉の現状(利用者理解を含む。)に関する基本的な理解、実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解、精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験		○			○	○							◎		
21UPWS4113	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	4	ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導および集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。	下記の項目について理解し、取り組める。 実習先で必要とされる精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解、精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解、「実習記録」への記録内容および記録方法に関する理解、実習計画の作成・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成、実習報告会		○			○	○								◎	
21UPWS3213	ソーシャルワーク実習Ⅲ	3	地域に生活する精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し、精神保健福祉援助ならびに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	地域の障害福祉サービス事業を行う施設等の実習を通して、下記の視点を学ぶ。 利用者やその関係者等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成、支援計画の作成、利用者やその関係者との支援関係の形成、利用者やその関係者への権利擁護および支援とその評価、精神医療・保健・福祉に係る多職種連携の実際、精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解、施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解、施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際、地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ・ネットワーキング・社会資源の活用・調整・開発に関する理解		○			○	○		○						◎	
21UPWS4123	ソーシャルワーク実習Ⅳ	4	精神科医療を利用する精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し、精神保健福祉援助ならびに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	1. 精神科病院において実習を行う学生は、下記の項目について実践できる。 入院時または急性期の患者およびその家族への相談援助、退院または地域移行・地域支援に向けた患者およびその家族への相談援助、多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 2. 精神科診療所において実習を行う学生は、下記の項目について実践できる。 治療中の患者およびその家族への相談援助、日常生活や社会生活上の問題に関する患者およびその家族への相談援助、地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助		○			○	○		○							◎

